

# まほろばだより

— Center for Diversity and Inclusion —

2021  
June  
vol.37

第37号

## Contents

- Report 1 女性研究者・医師支援センター科学研究費申請支援事業の成果
- Report 2 国際ソロプチミスト奈良 一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞
- Report 3 6年一貫教育授業・良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」
- Report 4 女性研究者の留学だより(2)
- Information 1 令和3年度下半期研究支援員配置希望者募集

まほろばだよりのデザインをリニューアルしました。1年に4回発行されるニュースレターで、皆さまに四季の移ろいを感じていただければ幸いです。

Report

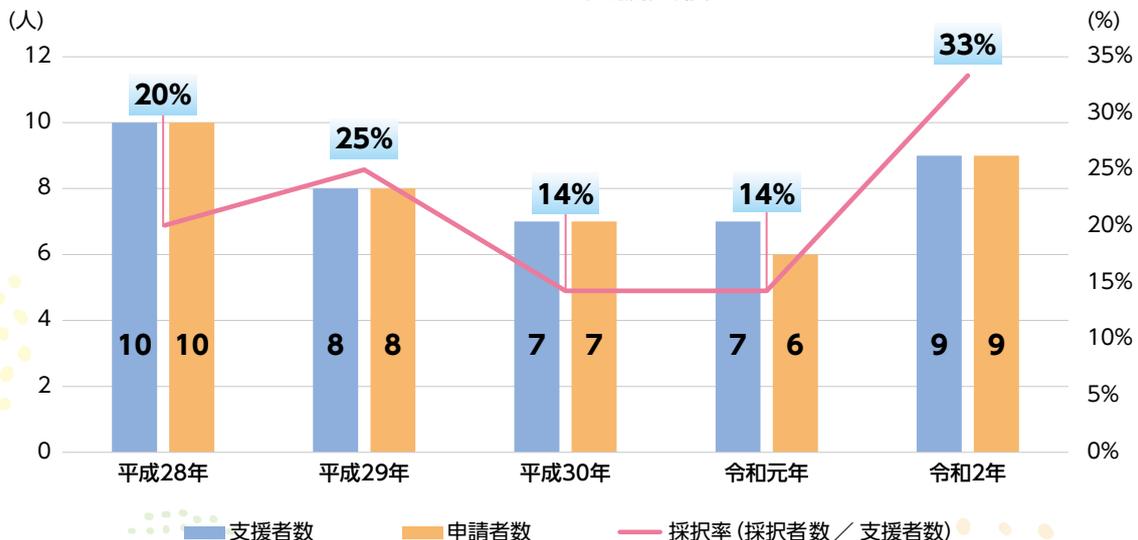
## 女性研究者・医師支援センター科学研究費申請支援事業の成果

女性研究者・医師支援センターでは、科学研究費(科研費)助成事業に前年度申請をしていない女性研究者・医師を対象に、平成28年度から科研費申請支援事業を実施しています。本事業は、科研費指導添削に実績のある民間会社に委託し、研究テーマ等申請内容を個別に相談できるWEB面談と無制限の申請書添削を提供しています。昨年度からは、支援開始時期を早めることで、より多くの指導添削を受けられるよう工夫しています。また、若手研究者の裾野拡大をめざして、常勤の病院助教にも支援対象を拡げました。本事業を利用する研究者・医師の多くが初めての科研費申請、もしくは前回申請からブランクがあるため、これまでほぼ全員が申請をするも採択率が低い状況でした。その中、本年度は3名の女性研究者・医師が本事業から採択に至っています。3名の方々からは、「面談で申請内容を深く掘り下げることができました」、「複数回の添削によって完成度の高い申請書になりました」という感想が寄せられました。今年度も研究推進課と協力し、より多くの女性研究者・医師が科研費を獲得できるよう支援事業を実施して参ります。

### 令和2年度支援事業を利用し採択に至った研究者

消化器・総合外科学	長井美奈子	助教	若手研究
糖尿病・内分泌内科学	毛利 貴子	診療助教	基盤研究C
糖尿病・内分泌内科学	紙谷 史夏	病院助教	基盤研究C

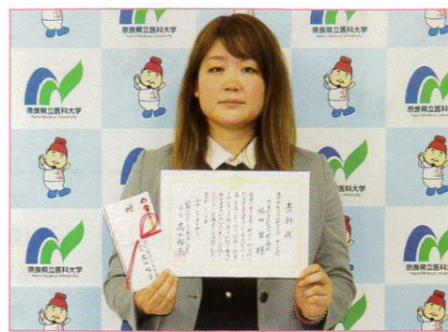
### これまでの支援実績



## 脳神経内科学講座 塩田 智 先生が国際ソプロチミスト奈良一あすか 大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソプロチミストは職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女兒の生活向上のため奉仕活動を実施されています。国際ソプロチミストアメリカ日本中央リジョンは学業・人材ともに優秀な女性の大学院生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

この度、女性研究者・医師支援センターからの推薦により本学脳神経内科学講座の塩田智先生が「遺伝子異常に起因する筋萎縮性側索硬化症の病態解明」という研究テーマで、国際ソプロチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。おめでとうございます。当センターでは、今後も医学・看護学に貢献する優秀な女性大学院生の活躍を応援していきたいと思っております。



## 良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」の授業を 実施しました

医学科2年生123名を対象に、女性研究者・医師支援センター教員の須崎マネージャー、裏山コーディネーター(生物学)、当センターおよび教育支援課の事務職員が協力し、「ロールモデルを探す」の授業を実施しました。本年度もCOVID-19感染拡大防止のため対面による授業ができず、Teamsを用いたオンライン授業となりました。講演の後、本学で初めての試みである、Teamsのブレイクアウトルーム機能を用いたグループワークを行いました。当初、オンラインで活発な議論が行われるのか不安がありましたが、学生たちは熱心に参加しPowerPointを用いて多様な意見を発表してくれました。授業終了後のアンケートでも、大多数の学生がグループワークに参加できたと回答し、発表や質疑応答の内容も理解できたと答えていました。学生、教員、職員ともに、オンラインでも活発なグループワークや議論が可能であることを実感する学びの多い授業となりました。講演をお引き受けいただき、学生に意義ある課題をご提供いただいた大林千穂教授、嶋緑倫医学部長に感謝申し上げます。ありがとうございました。学生の皆さんもお疲れさまでした。



コーディネーター  
裏山 悟司先生

### g□ 第1回(4月16日)

講演「男医・女医」  
病理診断学 教授 大林 千穂先生



#### 課題

- A 男子、女子、共学の中高教育について  
中高教育はジェンダーギャップに影響を与えますか  
ジェンダーギャップを改善するためにティーンエイジャーへの教育で何が必要ですか
- B 医学部受験者数、合格率に認める男女差について  
その原因はどこにあるのでしょうか  
どうすれば改善できるのでしょうか
- C 2018年の医学部入学試験男女差別問題に関連して  
多くの医師が理解を示しましたが、それにはどのような背景があると思いますか  
診療科間の医師数、男女割合に差があることの妥当性、改善策を考えてください
- D 医師のワークライフバランスについて  
女医が出産・育児を契機に離職するのを避けるには何が必要ですか  
男医や独身女医にとってのワークライフバランスをどの様に考えますか

「ロールモデルを探す」4月16日 課題:B 6班

#### 【原因】

- ・医師になりたい女性が男性に比べて少ない
- ・医師は男性の仕事で、女性は体力・就業時間の面で難しいという偏見
- ・女性は出産や育児で休職・退職してしまうイメージがある
- ・合格率の差: 出産・育児で休職・退職せざるを得ない女性よりも、男性を医師として育成したい大学があると考えられる(長い期間働いてほしい)

#### 【改善法】

- ・偏見を減らすー出産や育児は男女で協力して行うものというイメージを広める
- ・女性の復職・支援の仕組みや環境を整える
- ・出産・育児休暇が十分とれるようにする
- ・実際に女性医師の働き・活動について知る

### g□ 第2回(4月23日)

講演「医師の男女共同参画」  
女性研究者・医師支援センター  
マネージャー 須崎 康恵先生



#### 課題

- A 医師の男女共同参画を実現するために皆さん自身が果たすべき役割とは何かを考えてください
- B 医師の男女共同参画が実現した際、日本社会全体に及ぼす影響を考えてください
- C 本邦の医学部に入学する女性割合が25年間30%台で推移している理由と、その割合を50%に近づけるための方策を考えてください
- D 固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)がもたらす悪影響と、そのような意識から自由になるための方法を考えてください

「ロールモデルを探す」4月23日 課題:D 3班

- ・固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みがもたらす悪影響
  1. 自分が本当にやりたいことができない。自分の可能性に制限がかかる。
    - ex) 女性が仕事をやめなければならない。男性は仕事をしないといけな。スポーツなどでも性差によって競技人口に偏りがある。野球をしている女性は少ないなど。
  2. 女性であるというだけで実力を見る前に低く評価されることがある。
    - ex) 外科医は女性が少なく、また女性の実力に不安を感じる患者さんもいるかもしれない。
- ・そのような意識から自由になるための方法
  1. 子供が小さいころから性別によって分けられるという感覚を植え付けられないように、大人が教育していく。特に学校での教育。



### g□ 第3回(4月30日)

講演「小児科医から血友病専門医へ: 新たな治療を目指して」  
医学部長 嶋 緑倫先生



「ロールモデルを探す」4月30日 課題:A 8班

#### 研究は必要

- ・臨床と研究は繋がっている  
臨床の発展のためにも研究は必要 研究を元に臨床が進む  
感染症などの研究をすることで、特効薬を作ることができる  
その特効薬を用いてより効果的な医薬品を作ることができる  
また使用した薬の効果を見ることでより効果の高い薬の研究につながる
- ・現場で実際に患者さんを見ている医師だからこそ、病気の課題や困難な点も分かることがある(現場の視点を拾うことができる)
- ・病気の症状がどのように変化しているか、リアルタイムで臨床の点から見ていける
- ・研究をしていく中で、臨床医も他の科の人と知り合うことができ、共同研究することができる
- ・研究も臨床も分かっている人が入れば、人手不足している分も補える
- ・臨床している人が研究することで、橋渡的な存在になる  
臨床か研究どっちかしかできない人にも、簡単に情報を共有することができる

#### 課題

- A 臨床医師に研究は必要ですか  
その理由は何ですか
- B 医療AI化に伴い医師の業務は変わりますか
- C 女性医師の研究者を増やすためにはどうすればいいですか
- D 新薬の開発における医師の役割は何ですか



#### Information

## 令和3年度下半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない女性研究者・医師を対象に研究支援員を配置しています。現在は診療助教1名、臨床系教員5名、看護学科教員1名の合計7名の女性研究者がこの制度を利用しています。

令和3年度下半期(令和3年10月~令和4年3月)の希望者募集については7月に案内予定です。制度の利用を検討されている方は女性研究者・医師支援センターへお問い合わせください。



本学では、平成20年以降に海外へ留学した女性教員はわずか2名で、海外留学教員に占める女性の割合は6.25%と少ない状況です。男女に関わらず研究者・医師の海外留学は、研究・教育・診療に新たな視点をもたらす貴重な機会になりますが、中でも女性教員の留学体験は女子学生や後輩への励みとなり、本学の女性活躍推進に大きな意義をもたらすと考えます。今回は、循環器内科学講座の助教としてご活躍中の妹尾絢子先生に留学体験をご紹介します。

## 循環器内科学 助教 妹尾 絢子

私は、2017年に医師である夫の留学に伴い、子供二人を連れてアメリカのマサチューセッツ州ボストンに渡米いたしました。J-2ビザでの渡米であったため、渡米後に労働許可証を取得し、研究室を探しました。奈良医大大学院ではマウスを使って心不全の基礎研究をしていましたが、アメリカで研究室見学をしていくうちに、より非侵襲的に心疾患の病態に迫ることができる心臓画像分野に魅力を感じるようになりました。そこで、Brigham and Women's Hospital (BWH) のRaymond Y. Kwong先生の心臓MRI研究室にアプライをし、幸いにも同研究室で学ぶ機会を得ることができました。BWHは、ハーバード大学医学部の教育病院で2番目に大きな全米トップクラスの病院です。特に循環器内科分野では、Braunwald先生を始め、世界でも名高い先生の研究室が多数あり、世界中から医師、研究者が集まっています。1週間に1度開かれるカンファレンスでは、世界最先端の研究発表やレクチャー、ディスカッションを聞くことができ、大変良い刺激を受けました。

留学中は、心不全症状を有する非虚血性心筋症が疑われる症例を対象に、心臓MRIを用いたTI mapping法およびFeature Tracking法を用いた心筋性状および心機能評価による研究をさせていただきました。研究成果は、AHA (American Heart Association) やSCMR (Society of Cardiac Magnetic Resonance) などの国際学会でも発表させていただきました。今後論文発表を予定しています。

私生活では、慣れない海外生活での子供達のケアや日本では起こりえないトラブルの連続に目まぐるしい日々でしたが、海外生活を通して視野が広がり、家族皆が成長したように思います。また、アメリカでは子供達を社会全体で育てていくという意識が強く、女性が仕事をすることが当然のように受け入れられているため、日本よりも仕事と育児の両立がしやすい環境でした。

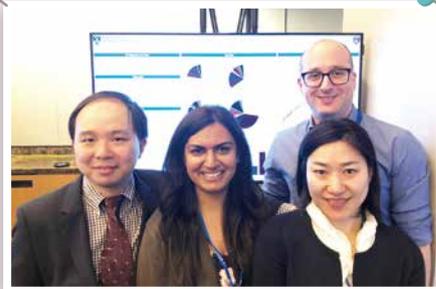
最後に、COVID-19パンデミックによるロックダウンを経験しましたが、職場も学校も瞬時にリモートに切り替えられた時には、アメリカ人の決断力の速さと行動力に驚かされました。アメリカ社会には人種差別や貧富の差など問題点もたくさんありますが、多様な考えや人物を受け入れる事ができる寛容な社会でもあると感じました。

この留学を通して、日本では出会えないような方々と出会い、異なる価値観や考え方に触れたこと

は、私の人生の中で大変貴重な経験となりました。今後、留学を目指す方々のご参考になりましたら幸いです。



▲ Prof. Robert Bonow (中央) を囲んで



▲ 研究室のメンバー



▲ Raymond先生と私

### 【編集後記】

映画の世界では見慣れていた感染症のパンデミックが、現実の世界を飲み込んで早1年が経ちました。これほどまでに医療の大切さを感じたことはありません。それと同時に、医療従事者等へのケアの必要性・重要性も痛感しています。今号より編集に加わることになりましたスタッフの津崎です。当センターの活動が、医療従事者の方々にもお役に立つことを願っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL: 0744-23-8011 (直通)  
0744-22-3051 (代) 内線: 2525  
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

